

# Vol.3 愛徳学園の宗教行事

こんにちは、広報部長です。

あっという間に5月も末となり、少しずつ暑くなってまいりました。カトリック教会では、5月は「聖母マリア」に祈りを捧げる月となっているのをご存知でしょうか。

また、本校はこの時期、母体となっている「愛徳カルメル修道会」の創立者「聖女ホアキナ」に祈りを捧げるミサを行います。今回は、本校で行われるミサについてお伝えしたいと思います。

一口にミサと言っても、目的により雰囲気は違います。現在の愛徳学園では、「**聖女ホアキナの祝日を祝うミサ**」（5月）、「**追悼ミサ**」（11月）、「**クリスマスのつどい**」（12月）が開かれます。いずれも、近隣の教会から神父様にお越しいただき、司式していただきます。私の感覚では、ホアキナのミサは「爽やか」、追悼ミサは「厳か」、クリスマスは「華やか」といったところでしょうか（注：個人の感想です）。

ミサの雰囲気が違ってくるのは、ミサで歌う聖歌が違うからです。聖歌は愛徳学園が大切にしているものの1つで、**毎日の朝礼で、1曲を選んで歌う**ことになっています。

そういえば、ある年の修学旅行を引率した際、バスガイドさんに「何か歌って」とリクエストされた高校生たちが、**観光バスの中でいきなり聖歌の大合唱を始めた**のにはびっくりしました。「さすがは愛徳生！」という、私の印象深い思い出です。

そんなミサですが、新型コロナウイルス感染症対策で、この2年は形を変えて実施しています。今年も、**宗教部の先生方の努力下、聖女ホアキナを祝う集いをオンライン配信で行うことができました**。とはいえ、例年通りのミサが、早くできるといいですね。

以上、広報部長からでした。